



空飛ぶクルマによる 観光集客力と防災力向上

～ 大洲市の取り組み ～

大洲市の取り組み (導入構想)



- キャッスルステイ事業への導入
- 松山空港からのアクセス改善
- 山間部・離島の孤立リスク解消



大洲市の「空」への挑戦：観光と防災の課題解決

1	2	3
背景 (Background) 陸路アクセス（松山空港から約1時間）の壁と、山間部・離島を抱える地理的課題。	取り組み (Action) R5年度：ヘリコプター活用の協定締結・実証開始。 R6年度：ヘリコプター運用の継続に加え、次世代モビリティ「空飛ぶクルマ」の実証飛行へ展開。	目的 (Goal) 「移動の自由」によるインバウンド需要の取り込みと、「孤立集落ゼロ」の防災体制構築。

【実績】 R5年度～R6年度 ヘリコプター活用事業の継続

令和5年度の協定締結以降、R6年度も継続して訓練および実証を実施。
既存インフラ（場外離着陸場）を活用し、運航の安全性とルートを確認。



6月実施

仁和寺連携ツアー
に向けた運航実証、
現地説明会（参加
者19名）。



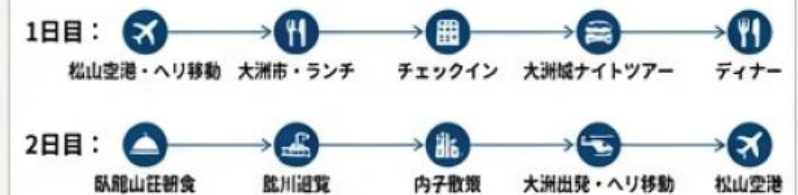
10月実施

大洲南中学校野球
部（42名）等を対象
とした体験搭乗・意
見交換会。

【観光実証】高付加価値ツアー「ZENtour」の成果

仁和寺・松山空港・大洲市をヘリで結ぶ富裕層向けモニターツアー

- **移動革命**：松山空港 → 大洲市内をヘリ移動。限られた時間を「体験」に投資。
- **プレミアム体験**：NIPPONIA HOTEL宿泊、大洲城ナイトツアー、臥龍山荘貸切、肱川遊覧朝食。
- **成果**：外国人ツアー参加者、**移動時間の短縮**と**特別な視点からの観光**に高い評価。



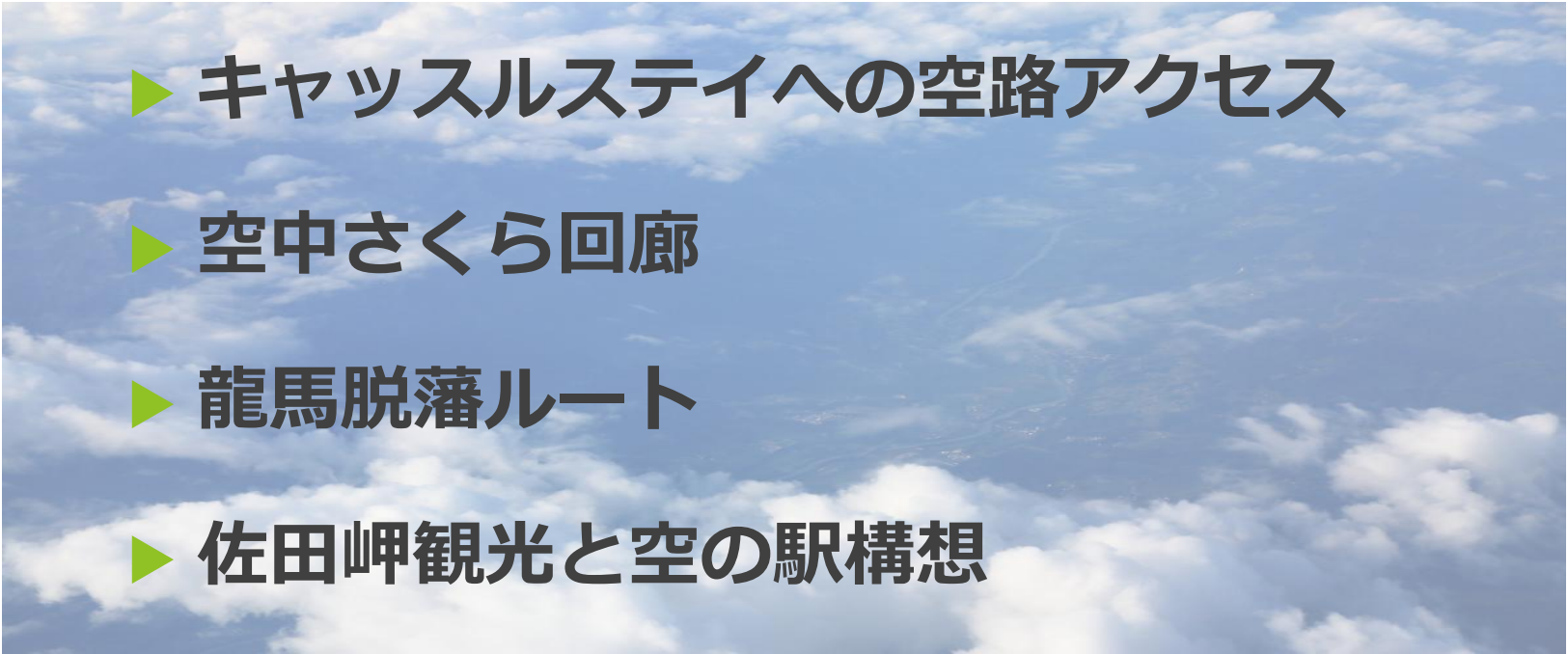
【地域・防災】 市民・関係者による受容性の醸成

令和6年10月、大洲市長、議長、商工会議所、婦道会、自治会など (24名) 参加する体験搭乗・意見交換会を実施。

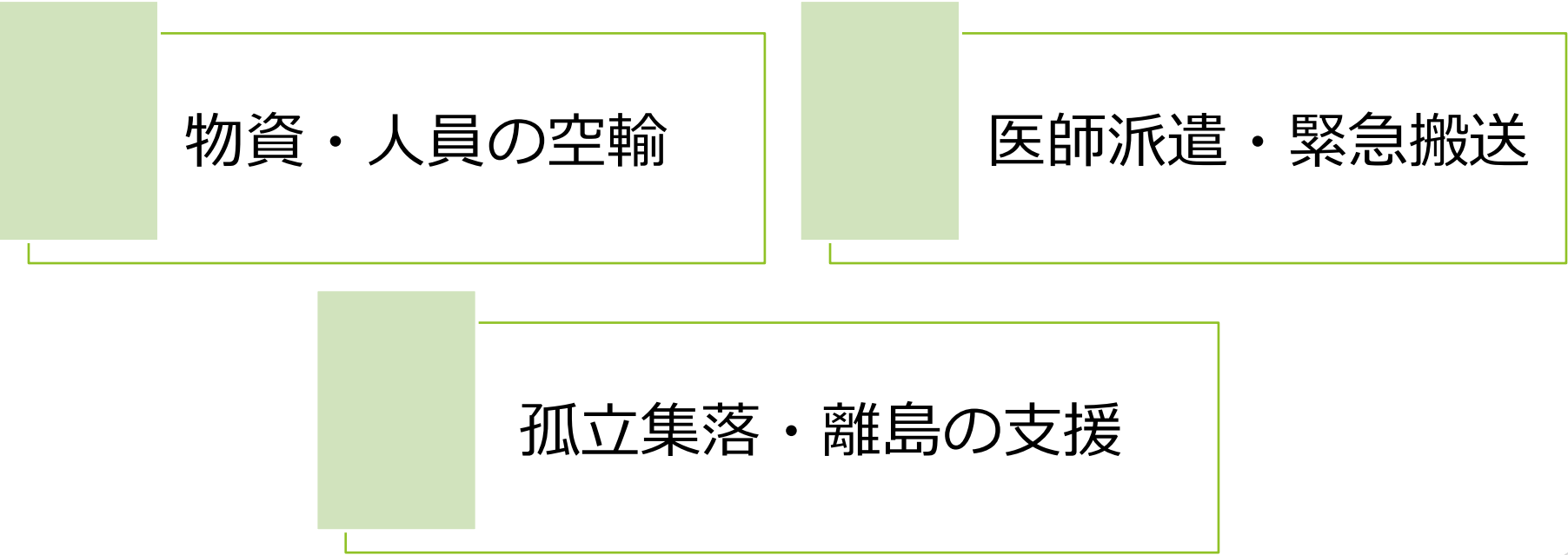


- **防災意識**：災害時の物資・人員輸送ルートとしての有効性を確認。
- **次世代教育**：地元中学生（野球部）への搭乗体験を通じ、郷土愛と航空分野への関心を育成。

空飛ぶクルマがつくる新しい観光体験

- 
- ▶ キャッスルスティへの空路アクセス
 - ▶ 空中さくら回廊
 - ▶ 龍馬脱藩ルート
 - ▶ 佐田岬観光と空の駅構想

災害時の命を守る空のインフラ



物資・人員の空輸

医師派遣・緊急搬送

孤立集落・離島の支援

なぜ「ヘリコプター」から「空飛ぶクルマ」へ？

ヘリコプターの実績を基盤としつつ、環境性能と静粛性に優れた次世代機への移行を目指す。

項目	空飛ぶクルマ (eVTOL)	ヘリコプター
環境性能	電動・排出ゼロ・静音	騒音あり・排ガスあり
操縦性	自動運転対応 (将来)	熟練パイロット必須
インフラ	バーティポート (新規)	既存ヘリポート活用
用途	都市内移動・空のタクシー	長距離・救急・災害

都市型・短中距離移動における「静かさ」と「環境負荷」の課題を解決。

愛媛県大洲市における 空飛ぶクルマ実証飛行



2025年
11月3日（月・祝）

会場

愛媛県大洲市肱北緑地多目的グラウンド
（大洲まつり「おまつり村」会場横）
※車で来場の際は「おまつり村」駐車場を
ご利用ください。

イベント概要

- 飛行見学
最大3回の飛行を予定！
- VR体験
VR動画で飛行を体験！
- 搭乗&写真撮影
地上展示中の機体に搭乗できます！

飛行スケジュール

- | | |
|---------|------------------------------------|
| ① 10:15 | 各回、説明と
フライトをあ
わせて約20分
を予定 |
| ② 12:30 | |
| ③ 14:30 | |



【飛行機体】
EH216-S：EHang社のマルチコプ
ター機

<留意事項>

- ・飛行にあたり関係当局と調整中です。
- ・天候等によりイベント内容・時間が変更又は中止になる可能性があります。

<主催> 愛媛県、大洲市 <実証飛行委託先> 株式会社AirX

<協力> 大洲青年会議所、株式会社長大

【お問い合わせ先】 愛媛県企画振興部政策企画局地域政策課交通政策室

TEL:089-912-2251 Mail: koutsuseisak@pref.ehime.lg.jp

大洲市環境商工部観光まちづくり課

TEL:0893-24-1717



2025年11月3日（令和7年） | おまつり村との共催



使用機体：EH216-S（株式会社AirX）

飛行実績

- 第1回（10:15）& 第2回（12:30）：離着陸場所の足場不良（降雨）により中止
- 第3回（14:30）

背景と経緯

- 2024年のヘリコプター実証
- キャッスルステイ等、富裕層観光客からの移動ニーズを検証済み

今後の展望

- ヘリコプターを活用した訓練を継続
- 社会実装に向けて県との連携





実装に向けたステップ

- ▶ バーティポート候補地の選定
- ▶ 飛行ルートของ安全性・騒音調査
- ▶ モニターツアーの実施
- ▶ 災害時運用プロトコルの策定
- ▶ 地域住民への説明と受容性向上

防災活用ビジョン：災害時の「命の道」を確保する

観光（平時）と防災（有事）



課題（Problem）

豪雨・地震による道路寸断。
山間部集落の孤立。



解決（Solution）

eVTOLによる医師派遣、
医薬品・救援物資の緊急搬送。

令和8年(2026年) 2月 訓練計画

2月16日	物資・人員搬送訓練 (大洲市防災センター ⇄ 森林公園)
2月17日	実証実験および地上訓練

ヘリパットの整備



空飛ぶクルマで創る未来の可能性

- ▶ 観光・防災・教育の三位一体活用
- ▶ 地域ブランドの向上
- ▶ 持続可能な交通インフラの構築

空飛ぶクルマは、未来を支える新しいインフラです。
地域の魅力と安全を空から支える取り組みとして、
検討を進めたいと思います。